

## 目の前の問題だけでなく将来を!

### ●浦高同窓会の常任理事会・理事会!

きょうは午後1時から「平成29年度第1回常任理事会」、3時から「同理事会」、4時半から「懇親会」でした。議題は平成29年度総会に向けての諸議題でしたが、すべて議決いただき、5月28日(日)の午後に開催される総会に提案することになりました。

開会にあたり、木村恵司会長(17回)のご挨拶。「日経ビジネスの『賢人の警鐘』にヤオコー会長で前浦高同窓会会長の川野さんの記事がありました。その中で、30店舗くらいまでは会長自らが指導されていたそうですが、それより大きくするためには若い人々への権限委譲とともに、自らが考えて行動する人材が必要だということでした。これは浦高の教育に通じるものがあると思いました。杉山校長先生は、日頃から詰め込み教育ではなく、自らの知識を使って知恵を出す考える教育が大切だということをおっしゃっていますが、社会に出ると考えることが大きな力になるということなのです。それと、最近の経済社会を見ますと政官学民とも目の前の問題ばかりに目を向けていて、将来の課題、2030年、2040年を見据えて手を打っていくことが必要だと思っています。同窓会でも、活性化検討委員会を置いて皆さんで長期的な課題について議論を始めてもらっています。今日の会議でも皆さん、よく考えて発言をお願いします。【香田の要点メモから】

続いて杉山剛士校長からのご挨拶。「今年で5年目になりました。一昨年度は入試で苦戦し、同窓会の皆様にもご心配をおかけしました。悔しい思いをバネにして浦高の底力を見せようと1年頑張ってきました。その結果を3つご報告いたします。1つ目は大学入試ですが、東大をはじめ全国津々浦々の大学、医学部に入りました。受験生が2月末まで教室や図書室で勉強する姿を見て結果が出るだろうと思っていました。2つ目はメディアが浦高の“世界のどこかで支える人材教育”“尚文昌武”“無理難題に挑戦”という教育方針に関心を示してくれていることです。3つ目はラグビー部の重症事故を踏まえて、同窓会をはじめさまざまな方から支援をいただくとともに、本人の努力もあり学業にも戻っています。本人の底力を示してくれています。これからもどうぞよろしくをお願いします。」

その後、議事に入り

第一号議案 「平成29年度浦高同窓会総会開催(案)について」

第二号議案 「平成28年度事業報告及び決算(案)について」

第三号議案 「平成29年度事業計画(案)及び予算(案)について」

第四号議案 「平成29年度役員選任(案)について」の4議案について審議がされました。

また、報告では昨年12月に設置された「浦高同窓会活性化検討委員会」の検討状況が報告されました。会長からは、中長期的な課題に対しても一定の期限の中で具体的な提案を出すことが求められました。ご挨拶の中にあつた目の前の問題に目を向けることではなく、将来を見据えた方向性、事業提案などが求められているのですね。

\* \*

4時半から始まった懇親会では、岩淵均副会長(18回)がご挨拶。「昨日は大学の同窓会がありました。そちらは親睦を深めるものでした。一方、今日の会議では、昨年度行われた事業実績やさまざまな事業計画(案)が報告され、今でも活発な活動を行っていると思う同窓会をさらに活性化していこうという意気込みは素晴らしいものがあります。木村会長や役員の方々の英知を集めて、母校の発展を支えるとともに会員相互の親睦を進めていきたいと思えます。」

乾杯の発声は、高校3回の関一郎理事。「私が入学したのは昭和20年4月の戦時下でした。旧制中学校で3年、新制高校で3年、合計6年を浦高で学ぶことができましたが、これほど活発に同窓会活動が行われるとは思いませんでした。これからも、母校の発展、同窓会の発展、皆様のご健勝を祈念して乾杯。」

約1時間ですが、高校3回から63回卒(今年3月に大学した卒業生)までの約50名が大いに絆を深めることができました。

\* \*

### ●平成29年度浦高同窓会総会

日時:平成29年5月28日(日)13:30~17:30

会場:ラフレさいたま(さいたま新都心)

内容:総会、講演会、懇親会

※講演会講師:峰岸真琴氏(東京外語大教授)

※演題:「浦高生を『無教養なグローバル人材』にしないために」

\* \*

### ●県立浦和高等学校時代の経験と卒業後のキャリアに関するアンケート(大学入試センター実施)

大学入試センター研究開発部が今年1月から3月にかけて行った「県立浦和高等学校時代の経験と卒業後のキャリアに関するアンケート」の結果概要が報告されました。年代による高校生活の違い、勉強に対する意識の差、指導面の変化が面白いですね。また大学時代に専攻した勉強に強い興味をもっていることや就職も第一志望、さらに「生き生きと仕事している姿」が伺えるのも面白いものです。

[http://www.urawa-h.spec.ed.jp/index.php?page\\_id=464](http://www.urawa-h.spec.ed.jp/index.php?page_id=464) さて、この結果がどう生かされるのか?